



3月からの算定に向けて決起大会開催

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」④
 プラスチックとペットボトルの回収量が前年比2倍以上になるなど、皆さんのご協力でごみ減量の分別が進んでいます。分別が進んだことで、可燃ごみの量は順調に減っています。3月からは、いよいよ有明ひまわりセンターの建設費の負担割合を決める算定開始。さらなるごみ減量を目指して、決起大会を開催します。

感染状況次第で決起大会は中止

新型コロナの状況によっては、決起大会が中止になります。市公式サイトで最新情報を確認してください。



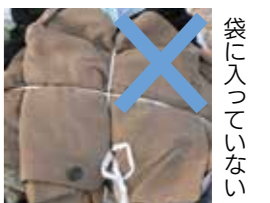
いよいよ3月から建設負担金の算定開始
 昨年11月から試験運転が始まっている有明ひまわりセンター。建設費約121億円のうち、約85億円は、柳川市とみやま市で負担します。両市の負担割合は、3月から1年間で両

市から出される可燃ごみの割合で決定。いよいよ3月から、負担割合を決める重要な1年が始まります。

よくあるお問い合わせ

Q 衣類や毛布を回収ボックスに出したいです。どのように出せばいいですか？

A 「タンスに収納できる状態」を目安に洗ったものを、透明の袋に入れて、市役所各庁舎の外に設置する回収ボックスへ出してください。レジ袋など中身が分からないものは回収できません。



決起大会 記念公演



ごみ清掃員であり、お笑い芸人の滝沢秀一さんが登場

【プロフィール】
 昭和51年生まれ。平成10年に西堀亮さんとお笑いコンビ「マシンガンズ」を結成。芸人を続けながら平成24年にごみ収集会社へ就職し、ごみ収集を通じた体験などをSNSで発信して注目を集めている。令和2年、環境省「サステナビリティ広報大使」に就任

3月からの算定開始の前に、ごみ減量への機運をさらに高めるため、「柳川市ごみ減量決起大会」を開催します。当日は、平成30年から続けてきたごみ減量大作戦の成果を発表。また、記念公演では、お笑い芸人の滝沢秀一さんから、ごみ収集現場の実情や収集員目線で考えるごみ減量へのビジョンを語ってもらう予定です。決起大会は、申込不要で誰でも無料で参加できます。参加者にはささやかなプレゼントがありますので、ぜひ足を運んでください。

12月の可燃ごみの量

柳川市 1183トン	みやま市 445トン
---------------	---------------

12月の市内の可燃ごみの量は1183トン(前年同月1378トン)でした。前年同月と比べて14%以上の削減です。一方、12月のみやま市の可燃ごみの量は445トン。可燃ごみの割合は、柳川市73%：みやま市27%でした。



順調に可燃ごみは減っているけど、みやま市も減っているから負けられないように頑張ろう

忠臣・松野重元も柳川に来ていた

「天下分け目」の関ヶ原の戦いで、立花宗茂と共に石田三成の率いる西軍につきながら、徳川家康の東軍へと寝返った大名に、小早川秀秋がいました。彼は戦後、備前岡山50万石余の大名となるのですが、その2年後、21歳で病没してしまいました。

すると、その遺臣たちは皆、「裏切り者の家臣などいらぬ」と、大名家への再仕官がかないませんでした。

そうした中で一人、関ヶ原で小早川家の先鋒大将(家老・1万石)をつとめた松野主馬(重元)だけは、引く手あまたでした。「楯裏の叛逆(戦での裏切り)は侍のせぬものなり」と、彼は主君秀秋の命に従わなかったからです。

関ヶ原の戦い、秀秋の命令を告げにきた伝令は、「殿(秀秋)は侍にあらず、将たり。将たる者の裏切りを武略

という。武略に善悪はなし。むしろ主馬殿こそ、ご主君への不忠不義であろう」と戦闘を催促し、窮した重元はどうしたか。己れの軍勢を戦場の一隅へ移し、自らは矢弾の降り注ぐ中を、馬上に身を曝しつづけました。

この重元の、苦渋の決断が東軍側の大名たちに称賛されたのですが、この行為には、叔父・松野平助の死が関わっていたようです。

西美濃三人衆の一・安藤守就の家臣であった平助は、武田信玄との内応を疑われ、主家を追われましたが、織田信長が惜しんで召しかかえました。ところが本能寺の変の夜、平助は男山の石清水八幡宮(現・京都府八幡市)に詣でていて留守。主君信長を滅ぼした明智光秀は、旧知の平助に、「君臣の礼をとれ」と迫りますが、平助は、



松野主馬 (関ヶ原町歴史民俗学習館蔵)

「信長公は忝くも、それがしをお召し下さったにも関わらず、いざという時に、お役に立てなかつた。そのうえ主の仇に、降参などできはせぬ」と、追腹を切ったのでした。

関ヶ原の戦いの後に重元は、西軍についていたため改易となった宗茂と入れ替るようになり、筑後柳河城に入城した田中吉政に抱えられ、1万2千石を拝領します。

32万5千石余の国持ちとなりました。

その田中家が、元和6(1620)年、跡継ぎなく除封されると、重元は駿河大納言忠長(三代将軍家光の弟)に迎えられます。さらにその忠長が寛永10(1633)年に自害すると、牢人となって明暦元年(1655)8月、この世を去ったと伝えられています。

■文 川来耕三